🔴年初のご挨拶。

昨年一番おもしろかったこと・・・ラグビーもありますが、私は「渋野日向子」。パー５の２オンを狙う場面の緊張感はたまらない。２０才の娘が期待通りの結果をだすことに興奮しております。（ドレス姿は・・・）。

見立てどおりになったと威張りたいこと・・・私は歌舞伎や茶道、華道、舞踊等、本物の力とは関係なしに、当然のごとく“名跡”を継ぐことをあほらしく思っております。さらにバカバカしいと思うのは政治家の世襲。小泉ジュニアーがもてはやされるのを苦々しく眺めておりましたが、環境大臣に就任して、その実力が“それほどでもない”ことが証明され、嬉しく思っています。ただ・・・妻はそう主張する私を苦々し顔で無視しております・・・。

７０才になって思うこと・・・６０年前の小学生時代から、思考回路は何も変わっていません。意味不明でしょうが田舎で言い伝えられる“どうかん”とか“どぎ”の意識をもったまま、７０才になりました。反省するわけでも、嘆くわけでもありませんが、不思議な思いにとらわれます。今後にどんな人生が待っているのか・・・幸い薬に頼って健康ですが、議員は再来年の任期で辞めようと思っています。

昨年逢った一番の人・・・三田市森市長。別紙に１２月議会の質問あらすじを示しています。お暇な方と我慢強い方は、ぜひお目通しください。三田市は現在と将来の財政窮乏を見据えて、全国に先行してこれまでの常識を超えた行財政改革を進めています。テーマは『市民と行政の役割分担の見直し』であります。紹介者もないのに１時間の時間を割いていただいた理由…森市長は同じ課題を抱えている多くの市町に、この改革を追随して欲しいとの思いからではないかと推察します。

やや感動したこと・・・古希のケジメで妻が山形県、芭蕉の旅を企画してくれました。「しずかさや…」の立石寺に登れたことは、一生ものの思い出になりましたが、なんと言っても最上川。「さみだれを…」もそうですが、「熱き日を海に入れたり最上川」のスケールに、唖然とする思いで川を眺めました。

嬉しく悲しかったこと・・・米泉湖での市民ウオークラリーが大成功でした。下松市の健康増進課のスタッフのご努力は、歯科衛生セミナーの大成功も併せて、けなげで好感度大であります。ところで…その会場で年配の方から「たばこの吸えるコーナーはどこですか」との問いに、「今日は健康目的の催しですから喫煙場所はありません」との対応。この流れ・・・これで良いのでしょうか。

羨ましく思ったこと・・・義父が自宅で９０才で亡くなりました。囲碁の有段者で死ぬまで詰碁に挑んでおりました。もちろん、ボケてはおりません。亡くなる前の晩は、母親とウイスキーをストローで飲みながら語り合ったそうです。私も死ぬまで酒を飲み続けたい（できれば妻に相手をしてもらいたい）。

楽しかったこと・・・「北海まさる歌謡ショー」がありました。歌謡曲好きの私は酒の力も借り大声で声援し、のめり込んでおりました。北海さんからは「北島三郎・魂（こころ）」と「ちあきなおみ・冬隣り」の２曲を紹介していただきました。皆様にもぜひユーチューブで聴いて欲しい…感動しますよ。

以上ですが・・・加えてお願いごとを３点。

１．市は「下松市ふるさとサポーター制度」を創設しました。加入は市のホームページから簡単にアプロ－チいただけます。周囲の下松出身者、下松を愛する方にお伝えいただけませんか。

２．１月１３日にスターピアで「太鼓公演会」が催をされます。京都から招いた一流人の演奏だそうです。お好きな方にお伝えください。

３．娘婿の車の会社「ジョイル」が創業３年目です。ご用命を。

🔴活動報告。

１２月１２日、議会での質問のあらすじです。なお、さらに時間と心に余裕のあるお方は、私のブログ「阿武スタイル」をご覧ください。おもしろいですよ。

問１…財政の将来課題の想定

国立社会保障、・人口問題研究所の推定では、２５年後、２０４５年の下松市の人口は５３９４人減少するとしている。この人口減と高齢化社会は、個人市民税の減少や生産力、消費力の低下、老人対策費の増大をもたらす。

さらに、国の交付金に依存できない借金事情や、待ったなしの災害対応への資金需要、さらに金利水準の上昇等の要素も加わり、大幅な資金不足をきたすことが予測される。

この財源不足を、①増税、②国や県の補助金、③借金…これら従来手法で穴埋めすることができるか。

当市は、現状では地方都市としては優良な財政状況にあるが、そのようなマシな時期であるからこそ将来課題に今から対応していくことが求められる。市は財政の将来課題をどう捉えているか。

問２…将来課題への基本的スタンス

その対応策として、

❶市民の自治体依存意識を払拭して自助の意識をどう醸成していくか、

❷受益者負担の拡大ほか市民に痛みを認識してもらう施策に踏み込めるか、

❸「あった方が良いが無くても済む」事業の実施を５年間凍結する等、当面の財務構造改善のための思い切った事業見直しができるか、

❹この当市の現在の財務状況と、将来負担増という行政課題を市民にどう知らしめていくのか、

・・・をあげたい。

三田市の行財政改革方針の“いの一番”には『市民と行政との役割分担の見直し』とある。このことばをどう聞かれるか。

問３．将来課題への具体的な対応

私は思う。

・ごみの収集はいつの時代から、自治体の責務になったのだろうか

・市民窓口が、多大な管理コストに見合わない、安価な手数料で証明書発行等の業務を行っている理屈は何か

・学童保育はいつから義務教育の一環として“放課後健全育成”という質の向上まで行政が責任をもたねばならなくなったのか。

・運営に多額の資金を要す、斎場や救急車利用に自己負担なしという現状は、バランスを欠いていると思われないか

・買い物難民を救う公共交通機関の整備は、行政がすべて負わねばならない課題か

そこで・・・以下の事業の見直しが検討できないか。

❶事業の見直し、❷人員の削減、❸人件費の圧縮、❹広域消防の展開、❺高額消防施設の他市との共同利用、❻議員数の削減、❼敬老祝い金の５年延期、❽救急車の搬送手数料徴求、❾新斎場の利用手数料徴求、❿ごみ袋の販売単価のＵＰ、⓫市民課窓口の手数料ＵＰ、⓬水道料金ＵＰ、⓭成人保健対策費の見直し、⓮がん検診の自己負担ＵＰ・・・。

我々には２５年後も現在の若者世代が「現状程度の負担で現状程度の市民サービスを受けられるための知恵と勇気の将来設計」を期待されている。

以上、おつきあい感謝です。